

大学院 人間科学研究科 人間科学専攻 博士前期課程 入学試験問題

専門科目「教育学」1/2

- 注意（１） すべての問題用紙・解答用紙に受験番号を明記すること。
 （２） 設問のⅠ、Ⅱについて、それぞれ別の解答用紙を用いること。
 （３） 解答用紙に科目名、問題番号（Ⅰ、Ⅱ）及び選択した番号を明記すること。
 （４） 試験時間内の退室はできない。

Ⅰ. 次の２問（１）・（２）から１問を選択し、選択した番号を明記して論述しなさい。（40点）

- （１） 我が国の初等・中等教育段階の学校教育は、基本的には小学校（６年間）、中学校（３年間）、高等学校（３年間）という６・３・３制の下での設置形態を基本として展開されてきた。他の設置形態は、まず中等教育段階における中・高一貫の教育が1998年に制度化された。その制度の下で設置・展開された学校は、文部科学省の「学校基本調査」を基に整理すると、実態としては設置・運営形態により概ね「（中学・高等学校）同一校型」、「（中学・高等学校）併設型」、「（中学・高等学校）連携型」に大別される。

上記を踏まえて、以下の（ａ）（ｂ）の問いに答えなさい。

- （ａ）「（中学・高等学校）同一校型」「（中学・高等学校）併設型」「（中学・高等学校）連携型」の分類について、ア）設置主体の違い、イ）運営形態の違い、ウ）それによりもたらされる教育の特色・特長、の三つの観点で述べなさい。
 （ｂ）自治体の中・高一貫教育の学校を設置する場合、中には既存の中学校、高等学校と同一域内にそれを併設することも生じた。そのため、既存の中学校、高等学校との関係において、その目的に鑑み一貫教育の学校の設置にいくつか慎重な取り扱いを要した。公立の中・高一貫教育の学校設置、その在り方について、考えられる制度の運営上の留意点について述べなさい。

- （２） 現行の幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領の「前文」に関連して、以下（ａ）（ｂ）の問いに答えなさい。

- （ａ）いずれの「要領」においても、その「前文」では、まずもって教育の目的（教育基本法第１条）、目標（同第２条）について述べられている。下に掲載するその記述のうち（ア～ト）の空欄を埋める言葉を、①～⑳の選択肢より選びなさい（回答欄には、順に「アー○、イー○、ウー○、……」と記すこと）。

教育は、教育基本法第１条に定めるとおり、（ア）の完成を目指し、平和で（イ）な国家及び（ウ）の形成者として必要な資質を備えた（エ）とともに健康な（オ）の育成を期すという目的のもと、同法第２条に掲げる次の目標を達成するよう行われなければならない。

- 幅広い知識と（カ）を身に付け、（キ）を求める態度を養い、豊かな（ク）と（ケ）心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- （コ）の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び（サ）との関連を重視し、（シ）を重んずる態度を養うこと。
- 正義と（ス）、男女の平等、自他の（セ）と協力を重んずるとともに、（ソ）の精神に基づき、（タ）に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- （チ）を尊び、（ツ）を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 伝統と（テ）を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と（ト）を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

〔選択肢〕

- ①民主的、②主体的、③郷土、④自然、⑤国民、⑥社会、⑦生活、⑧文化、⑨個人、⑩生命、
 ⑪人格、⑫心身、⑬真理、⑭教養、⑮情操、⑯道德、⑰公共、⑱勤労、⑲責任、⑳敬愛

- （ｂ）「前文」のその後において、設問（ａ）の「目的」「目標」に加え、加速度的に変化する時代に備え、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」教育の在り方を具現化するものとして、各学校により組織的且つ計画的に編成される教育課程を位置づけている。

では、現行の幼稚園教育要領や小学校学習指導要領の編纂において、そのポイントとなった「社会に開かれた教育課程」と「カリキュラム・マネジメント」の考え方について、ふたつの関係性についても触れながら、その概要を述べなさい。

2026年度 (春期)

受験番号

大学院 人間科学研究科 人間科学専攻 博士前期課程 入学試験問題

専門科目「教育学」2/2

Ⅱ. 次の2問(1)・(2)から1問を選択し、選択した番号を明記して論述しなさい。(40点)

- (1) デジタル・ネイティブ世代に対して「情報モラル教育」を推進するための要点について、次の用語をすべて用いて説明しなさい。なお、用語の順序は自由とする。

<キーワード>

情報活用能力

自他の権利

情報モラル

ファクトチェック

- (2) 現代社会において、「学校教育」と「社会教育」の連携・協働が求められるようになった背景について、社会の変化に触れながら説明しなさい。そのうえで、子どもの発達に対して、学校教育と社会教育の連携・協働が及ぼす影響について説明しなさい。